

takasaki

第12回

たかさき  
薪能

1997年10月4日(土) 18:00~

会場

高崎観音山カッパビア第6駐車場  
(雨天の場合は、群馬音楽センター)

担当

仙舟才波(大風流) シテ山本利直 アド大島寛治

仕舞

賀茂 川原真三(観音流)  
班女 武田安弘(観音流)  
天鼓 下平克孝(観音流)

鼓

ハ島(宝流流) シテ本間恭孝 フネ村瀬 純

観覧券発売中

¥4,000 (当日券 ¥4,500)

主催

観音山通称協議会  
お問い合わせ/たかさき薪能事務局  
TEL0273-28-6613

プレイガイド

高崎駅横内観光案内所・高崎市文化会館・群馬音楽センター・カッパビア・富島屋・スズラン・黒磯院  
山崎記念館



# 演目解説

## 狂言

### 伯母ヶ酒

酒を商う伯母がけちな人で、いまだ、酒を振る舞ってくれたことがない。そこで甥は、武悪の面をつけて鬼に化け、伯母をおどして酒を飲む。飲むほどに面が邪魔になり、膝頭に掛けて飲むうちに、甥はついに酔いつぶれて寝てしまう。静かになったので、伯母がおそろおそろの様子を見にいき、鬼が甥であることを知り、大いに怒って追いこめる。

## 能

### 八島

春の夕暮れ、都の僧が西国行脚の折、四国の屋島を訪れる。僧は浦に住む老人に、一夜の宿を乞う。老人は、僧が都人と聞き、たいそう懐かしがる。そして僧の所望により源平屋島の合戦の模様を語り、自分が義経の亡霊であることをほのめかして、消え失せる。

その夜、僧の前に義経の姿の亡霊が現われ、屋島の合戦で、誤って取り落とした弓を苦勞して拾いあげた様子を語り、修羅道の苦しみに、激しい戦い振りを見せる。

しかし夜明けとともに、その姿は消え、僧の夢もさめ、浦には朝風が吹いていた。



## 出演者及びスケジュール [予定]

17:00 演目解説 (40分)  
有川美龜男 (群馬大学名誉教授)

17:40 休憩 (20分)

18:00 挨拶・火入れの儀 (30分)

18:30 狂言 (40分)

伯母ヶ酒  
山本剛直・大島寛治

19:10 仕舞 (10分)

賀茂 川原恵三  
悪女 武田安弘  
天鼓 下平克宏

19:20 休憩 (15分)

19:35 能 (50分)

八島  
シテ 本間美孝  
ワキ 村瀬純

2025 終演